

# 都市ブランド創造局 X方針の概要

	A領域	B領域	C領域		
局全体	<p>(1)ユーザー目線を踏まえた現場改善</p> <p>利便性の向上、ダイバーシティ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワーキングチームの設置</li> <li>ユーザーニーズの把握</li> </ul>	<p>(1)文化芸術、スポーツ活動の担い手の育成</p> <p>次世代を担う人づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若者を対象とした活動支援</li> <li>リーダー、指導者の発掘・育成</li> </ul>	<p>(2)スポーツ・コンサートによる「稼げるまち」</p> <p>観光誘客・地域経済活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光、文化とセットで楽しめる仕組み(滞在時間の延長)</li> </ul>	<p>(1)施設のあり方・ハード</p> <p>都市間競争力の強化、老朽化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集約、複合化</li> <li>施設の高機能、多機能化</li> </ul>	
	文化	<p>(2)アートへのアクセスの多元化</p> <p>美術に触れるきっかけづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルコンテンツの充実</li> <li>施設の来館メリットの向上</li> </ul>	<p>(3)文化関連施設のあり方・ソフト</p> <p>持続可能なサービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運営方法の改善</li> <li>受益者負担の見直し</li> </ul>	<p>(4)外郭団体の見直し</p> <p>芸術文化振興財団</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営人材の採用、育成</li> <li>ロードマップの検討</li> </ul>	
<p>(3)文化施設の観光客向けサービスの充実</p> <p>入場者数の増、観光誘客</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の高付加価値化</li> <li>アクセスしやすい環境の整備</li> </ul>		<p>(5)文化芸術を通じた地域経済の好循環</p> <p>地域経済活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業の協賛メリット創出</li> <li>アフターコンベンションでの利用</li> </ul>			
スポーツ		<p>(4)スポーツ施設のオンライン予約の導入</p> <p>利便性の向上、料金収入の増</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体育館予約システムの導入</li> </ul>			
		<p>(5)観光関連データのプラットフォーム構築</p> <p>効果的な施策の実施、官民連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エビデンスに基づく観光施策</li> <li>マーケティング戦略策定支援</li> </ul>	<p>(6)観光・コンベンション施設のあり方・ソフト</p> <p>持続可能なサービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受益者負担の見直し</li> <li>市民割引制度の導入</li> </ul>	<p>(7)外郭団体の見直し</p> <p>観光コンベンション協会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門人材の採用、育成</li> <li>ロードマップの検討</li> </ul>	
観光					

## 局区X方針〈都市ブランド創造局〉

### 1 組織の使命（どのような役割を担うのか）

まちに潤いや活力を与える賑わいを創出するため、観光資源の磨き上げや大規模イベントの誘致、生活を豊かにする文化芸術・スポーツの振興などを一体的に推進し、北九州市のもつ多彩な魅力や強みを活かし、都市ブランドの向上を促進する。

### 2 課題と背景

#### 課題A（1）【文化・スポーツ・観光】

##### ① 課題名

ユーザー目線を踏まえた現場改善（文化、スポーツ、観光・コンベンション）

##### ② 課題の内容

- ・文化施設やスポーツ施設などにおいて、ユーザー目線が十分ではなく、特に子育て中の世帯にとって、利用しづらい設備やサービスがあること
- ・障害のある方や外国人に対応できていない、施設・設備、案内表示があること

##### ③ 課題の背景

年齢の差異（大人と子供、高齢者など）、障害の有無、言語などにかかわらず、多様な人が利用しやすいサービスの提供が求められていること。

##### ④ 課題に対する取組み

現在、博物館ではワーキングチームを設置し、案内表示の改善に取り組んでいる。今後は、ユーザーニーズの把握方法の改善や、取組事例を施設間で共有する場を設けるなど、ユーザー目線に立って、さらなるサービスの改善に取り組んでいく。具体的には、子ども連れ世帯（ひとり親）、障がい者（視覚障害、聴覚障害、車いす）、ジェンダーなど、対象ごとに点検項目を設定し、複数の職員で点検するなど、きめ細かなチェック体制を整えるとともに、施設を跨いで点検を行うことで、全体としてサービスを向上させ、より高いレベルでサービスの平準化を図る。

#### 課題A（2）【文化】

##### ① 課題名

アートへのアクセスの多元化

##### ② 課題の内容

- ・美術館の入館者数が減少傾向にあること
- ・収蔵作品のデータベースがないなど、美術館のDXが遅れていること

##### ③ 課題の背景

美術館の入館者数が減少傾向にあるため、市民の方に美術に興味を持っていただくきっかけづくり、さらには障害のある方、不登校児童、高齢者など、美術館への来訪が困難な方も含めて、誰もが美術にアクセスできる環境を構築する必要がある。

#### ④ 課題に対する取組み

趣味・娯楽の行動様式が、直接鑑賞からスマートフォンやCD・DVDなどの間接鑑賞に移っていること（社会生活基本調査）を踏まえて、令和6年度は、国の「Innovate MUSEUM事業（博物館DX推進事業）」を活用し、美術館内を散策できるVR動画などデジタルコンテンツの充実や、美術館と学校をオンラインでつなぎ、専門スタッフの案内により美術鑑賞を行う「オンライン・ミュージアム・ツアー」を実施するとともに、デジタル技術を活用した美術鑑賞の有効性を検証し、本格実施に向けたプログラムの改善等を行う。

また、収蔵作品240点のデータベース化（作品紹介、作者紹介、英語対応）を行い、HPで閲覧できるようにするとともに、まちなかで美術に触れる機会の創出、イベントや夜景を楽しむ機会の創出（夜間開館イベント、館内レストランでのパーティープラン）など、様々な手法を活用して、美術に興味を持っていただくきっかけづくりに取り組み、美術館への来館を促していく。

あわせて、例えば小中学生の体験学習として美術品の模写を認めるなど、来館メリットを高める取組についても実施していく。

### 課題A（3）【文化】

#### ① 課題名

文化施設における観光客向けサービスの充実

#### ② 課題の内容

文化施設についても観光集客の視点に立ち、観光客など市外からの来訪者がアクセスしやすい環境の整備を行う。

#### ③ 課題の背景

文化施設の入館者数が減少傾向にある中で、文化に興味がない方にも来館を促し、その場所（文化施設）が持つ価値に触れるきっかけづくりや、観光誘客を促す施策に取り組んでいく必要がある。

#### ④ 課題に対する取組み

館内wifi環境の整備、本市観光サイトへの文化施設一覧の掲示、各文化施設の内外に記念撮影スポット（施設壁面を活用した3D壁画の看板、ロゴオブジェなど）の設置、サイン（当該施設及び周辺施設の案内）整備などに取り組んでいく。

### 課題A（4）【スポーツ】

#### ① 課題名

スポーツ施設のオンライン予約の導入

#### ② 課題の内容

・オンラインによる予約システムが導入されていないこと

#### ③ 課題の背景

現在、体育館を専用利用する際は、ホームページ等で空き状況を確認し、体育館に直

接出向いて申込み、使用料の支払いを行っている。

④ 課題に対する取組み

体育館予約システムを導入するに当たり、現状を正確に把握するとともに、誰もが使いやすい最適なシステムになるよう実証実験などを行い、慎重に検討を進める。

また、市外からの利用者も積極的に受け入れるなど、利用率の向上を図るとともに、利便性の向上（高付加価値化）による受益者負担の見直し（市外利用者料金の設定など）について検討を行い、財源確保によるさらなるサービスの充実につなげていく。

課題A（5）【観光】

① 課題名

観光関連データを官民で共有するプラットフォーム構築  
（官民連携による観光振興）

② 課題の内容

・エビデンスに基づく観光振興施策の立案・検証等が求められていること

③ 課題の背景

コロナ禍を経て観光を取り巻く環境が大きく変化している中、変化に対応し、観光で「稼げるまち」を実現していく必要がある。

④ 課題に対する取組み

来訪者の属性、市内の宿泊・周遊状況などをタイムリーに把握・集約するとともに、官民で共有できるプラットフォームを構築し、エビデンスに基づく観光振興施策の立案・検証を行う。

また、観光関連事業者のマーケティング戦略策定などを支援していく。

課題B（1）【文化・スポーツ】

① 課題名

次世代に向けた文化芸術、スポーツ活動の担い手の育成

② 課題の内容

・高齢化等により文化芸術、スポーツ活動等の担い手不足が見込まれること

③ 課題の背景

全国的に人口減少と少子高齢化が進展している中、北九州市は、政令市の中で最も高齢化率が高く、人口減少が急速に進んでいるため、地域で受け継がれてきた文化芸術、スポーツ活動等の担い手を育成する必要がある。

④ 課題に対する取組み

文化芸術活動について、令和6年度は、子どもや若者の活動を対象とした補助事業（文化芸術次世代育成事業「TRY ARTs」）や、若者がまちなかで多くの人にパフォーマンスを披露する場所づくりを行う「Challenge Music Stage」を新たに実施するなど、次世代の担い手育成に取り組んでおり、令和7年度以降は、事業効果を検証するとともに、参加者の意見等も踏まえて、ブラッシュアップさせ

ていく。

各地域で脈々と受け継がれる祭りなどを未来に継承していくため、後継者の育成に向けた支援を行っているものの、少子化による影響など、地域だけでは課題解決が難しいことから、各地域の課題や取組状況の共有、地域リーダーの発掘や育成、好事例の横展開に取り組むなど、計画的に担い手を育成していく。

スポーツ活動について、令和6年度は、「北九スポーツキッズマンズプロジェクト」など、子ども向け体験型スポーツイベントを開催し、スポーツに親しむきっかけづくりに取り組んでおり、令和7年度以降は、事業効果を検証するとともに、参加者の意見等も踏まえて、ブラッシュアップしていく。

また、北九州市スポーツ協会などと協力し、地域スポーツを担う人材（指導者等）の育成・活用及び資質向上に向けた取組を継続して進める必要がある。

加えて、まちなかオープンスペースの活用など、誰でも気軽にスポーツができる環境の創出に取り組んでいく。

## 課題B（2）【文化・スポーツ】

### ① 課題名

スポーツ・コンサートによる「稼げるまち」の仕組みづくり  
（経済波及効果や都市ブランド向上への貢献）

### ② 課題の内容

・大規模国際スポーツイベント等による経済波及効果の拡大

### ③ 課題の背景

北九州市では、多くの大規模国際スポーツイベント等を誘致・開催し、本市の認知促進やシビックプライドの醸成を図っているが、まちのにぎわいや経済波及を会場周辺だけでなく市内全域に広げていく必要がある。

### ④ 課題に対する取組み

今後は、観光や文化等とセットで楽しめる仕掛け・仕組みを通して、滞在時間をさらに延ばすことで「スポーツ・コンサートで稼ぐまちづくり」に取り組んでいく。

## 課題B（3）【文化】

### ① 課題名

文化関連施設のあり方・ソフト  
（運営方法及び受益者負担の見直し）

### ② 課題の内容

・文化関連予算の9割を施設関連経費が占めている

### ③ 課題の背景

市民一人あたりの文化関連経費について、他の政令市と比較すると、全体予算額は同程度であるが、施設にかかる経費は約1.4倍となっており、より効果的、効率的に文化関連施設の設置目的を達成するためには、運営方法や受益者負担のあり方を見直す必

要がある。

④ 課題に対する取組み

令和6年度は、市政変革推進プランに基づき、文化振興施策全体の経営分析を行い、現在の運営状況や他都市の同種施設との比較などを行う。

さらに、有識者やステークホルダー等と運営方法について検討を進めるとともに、具体的な改善に向けて課題の洗い出しや論点整理等を行う。

課題B（4）【文化】

① 課題名

北九州市芸術文化振興財団の組織体制見直し

② 課題の内容

・長期的視点に立った北九州市芸術文化振興財団の運営について

③ 課題の背景

北九州市芸術文化振興財団のプロパー職員は学芸員のためのため、その運営は市の派遣職員が主に担っており、長期的な視点での組織運営・経営が十分にできていない。

北九州市芸術文化振興財団の収入の約8割が市の指定管理料等であり、自主財源が少ないものの、政令市平均（75%）と大きな差異はない。

一方、文化芸術に関する外郭団体のプロパー職員の割合は、政令市平均は42%に対し、北九州市は4%と非常に少なく、人員体制の強化が必要である。

※指標は、いずれもR5調査時点のもの

④ 課題に対する取組み

経営人材の採用及び育成など、取組の方向性について、北九州市芸術文化振興財団と協議を進め、課題解決に向けたロードマップを検討する。

課題B（5）【文化】

① 課題名

文化芸術を通じた地域経済の好循環・施設の多目的活用  
（ナイトタイムエコノミー、異分野コラボレーション等）

② 課題の内容

・より自走できる文化芸術振興の仕組みづくりが求められていること

③ 課題の背景

環境の変化や厳しい財政状況に対応するため、地域のステークホルダーと連携して収入の確保に努めるとともに、文化観光による地域経済への貢献等を推進する必要がある。

文化関連施設の収支比率は約12%と低く、アート×食など異分野とのコラボレーションやナイトタイムエコノミー等により、新規顧客や新たな収入確保策の検討が必要である。北九州市には、ぬか炊きや寿司、焼き肉をはじめとした、歴史的背景のある食文化が多くあり、全国と比較しても、市民が食文化の展示、イベントへ参加する割合は高

い状況にある（文化庁と北九州市立大学の調査比較）。

#### ④ 課題に対する取組み

令和6年度から企業の文化芸術事業への協賛に対して、特別プログラムを提案するなど、協賛メリットの創出に取り組んでおり、今後も持続可能な事業スキームの構築に取り組んでいく。

また、美術館の「訪れたくなる特別な空間」を活用し、アフターコンベンション等での利用促進や、食事付き、夜景鑑賞付き、音楽鑑賞付きといった美術館を楽しむプレミアムパッケージを開発する。

加えて、博物館の「迫力ある恐竜の骨格標本」や文学館の「時間や天気によって様々な表情を見せる神秘的なステンドグラス」など、特別な空間を活かした更なる活用策について、民間企業や教育機関など、多様な主体と連携して検討し、新たな価値を創出するとともに、各施設の特性を踏まえたナイトミュージアムを実施するなど、ナイトタイムの取組みを強化し、滞在時間の延長に伴う宿泊客の増加など、地域経済の好循環を生み出していく。

### 課題B（6）【観光】

#### ① 課題名

観光・コンベンション施設のあり方・ソフト  
（受益者負担の見直し）

#### ② 課題の内容

・観光施設の利用料金のあり方を見直し、魅力ある取組の強化に向けた財源の確保を図る必要がある

#### ③ 課題の背景

小倉城をはじめとした観光施設は、インバウンド需要の高まりから入場者数が記録的に増加している中、他都市の観光施設と比較して利用料金はかなり割安となっている。

公の施設の利用料金については、平成31年4月に全市的な見直しが行なわれたものの、観光施設については、市民利用促進のため見送られた経緯がある（一部施設について見直し）。

#### ④ 課題に対する取組み

利用料金の見直しと北九州市民割引制度の導入（減免による利用料の据置）を検討し、指定管理料などの市負担額の軽減や施設のさらなる魅力向上、取組強化に必要な財源の確保を図る。

また、施設に付属する駐車場等の料金についても、適正な料金への見直しを検討する。

### 課題B（7）【観光】

#### ① 課題名

北九州観光コンベンション協会のあり方を見直し

#### ② 課題の内容

・長期的視点に立った北九州観光コンベンション協会の運営について

③ 課題の背景

MICE誘致・開催支援における都市間競争が激しさを増す中、北九州観光コンベンション協会がレベルアップするためには、専門性の高い人材の確保が不可欠な状況である。しかし、当該団体のプロパー職員の年齢構成は、50歳代に偏っており、若手・中堅職員が少なく、人材育成も十分とは言えない状況にある。

④ 課題に対する取組み

専門人材の採用及び育成など、取組の方向性について、北九州観光コンベンション協会と協議を進め、課題解決に向けたロードマップを検討する。

課題C (1) 【文化・スポーツ・観光】

① 課題名

ア 文化関連施設のあり方・ハード

(老朽化対策、集約複合化、都市間競争力の強化)

イ スポーツ施設のあり方・ハード

(老朽化対策、集約複合化、都市間競争力の強化)

ウ 観光・コンベンション施設のあり方・ハード

(老朽化対策、都市間競争力の強化)

② 課題の内容

都市ブランド創造局の予算のうち、約85%が施設管理にかかる経費となっており、老朽化の進展により、今後、施設管理経費のさらなる増加が見込まれ、ひいてはソフト事業の実施にも支障をきたす恐れがある。

このような状況を回避するには、施設の複合化や利用目的の自由化(多目的化)等により、市民の利便性を低下させることなく、効果的・効率的な施設のあり方を検討し、見直していく必要がある。

ア 文化関連施設は老朽化したものも多く、公共施設マネジメントの方向性を踏まえつつ、多目的活用など環境の変化に応じた文化関連施設のあり方を検討する必要がある。

イ スポーツ施設は、市内全域に点在化しており、また老朽化したものも多いため、公共施設マネジメントの方向性を踏まえつつ、スポーツ施設の複合化や老朽化施設の長寿命化対策などを検討する必要がある。

ウ 西日本総合展示場本館、新館、北九州国際会議場や皿倉山の観光施設(ケーブルカー、スロープカー、展望台の一部)は老朽化が進んでおり、施設のあり方、今後の方向性について、民間活力の導入を前提に検討する必要がある。

とりわけ、皿倉山の観光施設については、現在、皿倉登山鉄道株式会社が運営を担っているが、皿倉・東田地区のさらなる魅力向上を図るため、利便性の向上や人材の確保・育成といった観点から、運営手法についても検討していく。

③ 課題の背景

ア 北九州市の文化施設17施設中8施設（47％）が築30年を越えるなど、老朽化した施設が多く、令和6年度の文化関連予算5,095百万円のうち、約9割を施設の維持管理及び改修費用が占めており、文化施策における大きな課題となっている。

イ スポーツ振興関連の令和6年度当初予算3,224百万円のうち、約9割を施設の維持管理や改修費用が占めており、スポーツ施策における課題となっている。

ウ 近隣都市において、新規MICE施設が相次いで開業しており、展示場、会議場ともに、施設・機能の両面で都市間競争に不利な状況となっている。

また、皿倉山のケーブルカーは、高齢者や障害者等への十分な対応が構造的に困難であり、スロープカーは5年後に更新時期を迎える状況にある。

#### ④ 課題に対する取組み

老朽化している文化、スポーツ、観光施設のあり方検討に当たっては、単に施設の集約や統廃合にかかる議論だけでなく、厳しい都市間競争に勝ち抜き、基本構想に掲げる「稼げるまち」や「彩りあるまち」の実現に向けて、JR小倉駅周辺など利便性の高いエリアへの移転や、高機能かつ多機能化された施設への建て替えなどについてもあわせて議論していく。

なお、文化、スポーツ、観光施設のあり方については、北九州市公共施設マネジメント実行計画を基本としながら、関係各局とも連携し、必要に応じて見直しを検討する。